

第99号  
平成29年  
4月号

HPに 創刊号から  
連載中

## もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意  
深く徐々に試して下さい。

山田整骨院  
熊本市中央区出水 4-25-1  
096-364-7611

<http://yamadasu.com/>

熊本交通事故, 山田整骨院

<http://www/jiko-kumamoto.net/>

### 生体一者と症状即療法

医学博士 渡辺 正 月刊西医学 昭和50年6月発行

#### ◎ 生体一者

西医学健康法が現代医学の考え方と根本的に異なる点は、いろいろあるが、その代表的な点の一つには生体を一者とみる生体一者の観点、立場に立つことであり、今一つは症状を療法とみる症状即療法の疾病観を主張することである。現代医学においては、症状をただちに疾病と考へて、いろいろのクスリを用いて症状を抑えることを治療の本旨としている。ここに現代医学の治療が行詰ってきた根本原因がある。

生体一者ということは、われわれの体全体を一者と観る哲学で、ただ単に体を全体的にみるとか一単位としてみるとかということよりも、さらに徹底した見方である。

現代医学は、西洋医学の分析を主とした分析医学に毒される。生体を一者として把握することを忘れ、一者でなく多者の観点に立っている。したがって、立派な大学病院が数多くあるが、立派な病院ほど生体一者の哲学がなく多者観に迷いこんでしまっている。

すなわち、診療体系は内科、外科、耳鼻科、眼科等々と分れ、内科はさらに、呼吸器科、循環器科、消化器科などに細分されて、病人を一人の人間として総合的に診察することができない状況である。そして、眼科は眼ばかりをみて眼と生体との関係を忘れている。外科は手術のみを考へて、栄養関係や精神関係を見逃している。

内科を主として、現代医学の治療はすべてクスリ投薬と注射にのみに主力を注いで、クスリが生体におよぼす副作用や注射の招来する副作用については、ほとんど見逃している現状である。

#### ◎ サリドマイド児のこと

サリドマイド事件は、誤れる現代医学の治療に重大な警告を与えることになった。サリドマイドは悪疽(つわり)に悩む妊婦に投与されたクスリである。悪疽(つわり)とは妊娠後二、三ヵ月たつと、誰でも多少食物に対する嗜好が変わり、悪心があり、胸の気持ちが悪くなるものである。この症状は、妊娠五ヶ月ぐらいまでつづくのを普通とするが、中にはお産まで治らない人もいる。また、まったくない人もある。激しいものになると、食物は皆吐いてしまい、頭痛、不眠、眩暈(めまい)耳鳴り等の症状を伴い、うわごとやけいれんなどまで起こすものがある。

ところが、現代医学においては、悪疽(つわり)の原因については不明であるのに、サリドマイド(睡眠薬の一種)が悪疽(つわり)の症状を抑えるので、これを服用せしめたわけである。服用当時は何等の副作用が認められなかったが、胎児が生まれてみると手足の奇型が認められたのである。かくして、西ドイツ、イギリス、日本にサリドマイド事件という悲劇が起こったのである。

これは現代医学が生体一者観の哲学を持たず、ただ悪疽(つわり)の悪心、嘔吐、不眠などの症状を抑えるために、サリドマイドという睡眠薬を使用したための悲劇である。産婦人科を始め現代医学者は根本的に反省を要する問題である。

西医学健康法では、悪疽(つわり)の原因について、生体一者の立場に立って考へ、結局便

秘症の婦人が妊娠して、胎児の発育により、腸管が圧迫されるためにおこるとみる。したがって、西式では悪疽（つわり）の治療にサリドマイドは勿論いかなるクスリを使用することもない。便通をつけて、広い部屋の中を四つ這いにはって歩けばよい。

膝を伸ばして四つ這いにはって歩く。手には手袋をはめ、膝を伸ばして、腹をだらりと下げ、右手をだしたときに左足を出し、左手を出したときに右足を出すようにして、座敷の中を8字形に二十分間はうのである。二十分間つづけてはって歩けなければ、五分でも十分でも切って合計二十分間はって歩けばケロリと治る。はって歩く時は、お腹をダラリと下げてはって歩くのである。そうでないと効果がない。

悪疽（つわり）の対策一つとってみても、生体一者の哲学をもつ西医学健康法ではクスリは不要である。西式とサリドマイドの悲劇をもたらす現代医学の治療とは全然異なるものである。

### ◎ てんかんの治療について

てんかんについても、現代医学では、その原因が不明であるから、ただ、てんかん発作を抑えるアレピアチンなどのクスリを使用するだけである。このようなクスリを長く連用していると、ついには脳の働きが鈍くなり、性格の変化もしばしばおこり、はなはだしいものは痴呆状態におちいるものがある。

西医学健康法においては、てんかんの原因は便秘による宿便停滞とみる。したがって、生の清水を30分毎に30グラムずつ飲み、生食療法、断食療法などを行ない、宿便を排除する。軽度の場合は、生の清水を飲み、六大法則を行うだけでも治る。

このように、てんかんのような脳神経の病気はすべて腸の宿便が原因であることを知らねばならない。これが生体一者である。脳溢血でも精神病でもてんかんでも脳神経の疾病はその原因が宿便の停滞であるから、便秘を解消することが解決の第一歩である。

現代医学では、腸の宿便が原因であることを忘れて脳神経のクスリだけ用いて、症状を抑えることだけに努めているから、精神病でもてんかんでも脳溢血でも完治することがない。

真の医師たるものは進化史上における人間の位置、地球物理学的な影響、患者の社会的環境、経済的条件、家庭的事情などをも考慮する必要があるが、とにかく、少なくとも生体一者観の哲学だけは体得していないと、人間の疾病を予防することも治すこともできないはずである。

## あ と が き

西勝造先生著「長命の生理」に、『腎臓が悪いといって腎臓だけに対症療法を施す医家は、腎臓一辺倒の近視眼者である。皮膚の色がさえぬといって皮膚だけに療法を指向する医家は、これまた皮膚一辺倒の斜視眼者である。もともとわれわれの生体は、一有機体として、それ自ら一者を形成している。それを腎臓だけを、皮膚だけを遊離して処置する医家は、生体の何ものであるかを解せぬ無智低能者である。解剖学の如何なる大家も、生理学の権威も、生体一者観の哲学を体認し得ないならば、それは藪と誇られぬまでも、木を見て森を知らぬ杣人、森を見て山を知らぬ樵夫と同類であろう。高層建築を誇る医大も、最新設備を誇る病院も、その門前に内科、外科、産科等々と、沢山の科名を掲げ、担当医家の姓名を羅列している現状を見るにつけ、わたくしは、彼等を生体一者観の哲学で再教育することの必要を痛く感ずる。

ニュートンは林檎が枝から落ちる現象を見て宇宙に引力の存在することを発見し、タゴールは樹の枝は地上の根であり、根は地中の枝であると、宇宙の真理を詠じたが、共にこれは宇宙を一者と観ずる宇宙一者観の哲人にして初めて言え得る大金言である。わたくしは、医家諸君に、宇宙一者観の体得者たれとは望まないが、少なくとも生体一者観の哲学を身につけよと要請するものである。』とあります。体は有機的につながっている事を認識しなさいということです。腰の痛みも脚の不揃いや硬直、便秘、不眠等から起こりますので、一者観が必要です。